



但馬やまびこの郷  
令和8年3月  
Web版

「学校に行きづらい」「教室に入りにくい」児童生徒の  
保護者のみなさまにお便りします

# やまびこ



## 但馬やまびこの郷のこんなところがおすすめ

### 子どもの声

- ・スタッフも、来ている人も、みんな優しく、安心して過ごせる。
- ・楽しかった。いろいろなことが体験できる。いろいろな人と交流できて楽しい。
- ・やまびこの郷に来ることが修学旅行みたい。話すことができなかったことも話すことができる。
- ・同じ悩みを持った人が多いから、話しやすい。受け止めてくれる仲間がいる。

### 保護者の声

- ・素敵な大人や友人と出会い、居場所ができたことで笑顔が増えた。
- ・「ここでは、そんなに頑張らず、楽しめたいよ」と言ってもらい、安心した。
- ・やまびこのスタッフと話したり、一緒に活動したりすることを楽しむようになり、家でも明るい表情になった。
- ・中学卒業後もやまびこの友だちと支え合って高校生活を送っている。

※但馬やまびこの郷では、入所（宿泊利用）と1日利用（日帰り）で、小中学生受け入れを行っています。様々な体験活動での共同作業、集団生活、遊びなどを通して、支え合える仲間やスタッフとの交流が生まれ、安心して過ごせる居場所となっています。

## 行ってみたいけど・・・不安なことはご相談ください



初めての場所や人は緊張するなあ

OK  
大丈夫

利用者がいない時間帯にやまびこの見学をすることができます。



宿泊は自信がないなあ

OK  
大丈夫

1日利用（日帰り）での参加から始めます。次に2泊3日、4泊5日と少しずつすすめていきます。1日利用（日帰り）をくり返すこともできます。



苦手な活動に入れなかも

OK  
大丈夫

参加できなくても大丈夫です。お子さんの気持ちに合った過ごし方を相談して決めます。



どんな活動があるのかな

OK  
大丈夫

右の2次元コードのパンフレットで紹介しています。



ご相談は079-676-4724にご連絡ください。スタッフがお話をうかがいます。



## てっちゃんからのメッセージ



「ホントにこれでいいのだろうか？」という疑問に答えます

但馬やまびこの郷 所長 齊藤 誠一

最近、教育支援センター（以前の適応指導教室）、やまびこの郷、フリースクールなどに加え、校内サポートルームも充実してきており、不登校や不登校傾向のお子さんが学べる場所が増えてきました。すべてのお子さんがこうした施設に通える訳ではありませんが、これまでは学校や教室に入りにくかったお子さんたちもそうした場所に通い、まだ学校や教室には入れないものの、元気な姿が戻ってくることも多いようです。ただ、こうした姿を見ても保護者様を悩ます疑問は消えないようです。

家からは出られるようにはなったけど・・・



**A さんの保護者様からの相談**「校内サポートルームに行けるようになりましたが、・・・」

学校には行けてもなかなか教室に入れず、保健室に行ったり、そのまま帰宅していたりしたAさんは、新しくできた校内サポートルームに通うようになりました。そこにいる支援員さんと相性が良く、話をしたり、一緒にパズルをしたりして過ごしています。そのせいか、これまでのような暗い表情はだんだんなくなっていきました。これを見て、保護者様はホッとして、校内サポートルームが居場所になったと思い、うれしくなりました。ただ、その後も校内サポートルームには行けても、なかなか教室に入れられない状態が続いていることで、本当にこれでよいのかと疑問をもつようになりました。確かに、校内サポートルームで支援員さんと一緒に楽しく過ごしているけれど、あまり勉強はしていないようだし、学校には行っても遊んでいるだけのように思えてしまいます。

**B さんの保護者様からの相談**「毎回やまびこの郷へ行くのを楽しみにしているのですが、・・・」

Bさんは、やまびこの郷でスタッフや友達に会い、一緒に遊んだり、活動したりすることを楽しみにしています。最終日のお別れ会では表情も明るく、帰りの車中ではやまびこの郷であったことをうれしそうに話してくれます。家でも手伝いをしたり、時々勉強もしたりしているようなので、保護者はそろそろ学校に行ってくれるかなと思って、学校のことを話してみると、「学校は行かない、でも修学旅行は行ってもいいかな」「やまびこの郷は楽しいし、だれからも文句を言われぬ。だけど、学校は・・・」といった答えが返ってきます。このようなことを聞くと、何のためにやまびこの郷に行っているのだろうかと思ってしまいます。

### 保護者様の気持ちは複雑です

そのような時の保護者様から聞かれる気持ちを挙げてみましょう。

- ①笑顔は戻ってきたし、元気になってきたので、以前のことを思えばうれしいけれど、学校や教室に戻れなくていいのだろうか？確かに、嫌なことと向き合わず、楽しいことばかりしていれば、元気にもなるだろうけれど、ただ今の楽な環境に甘えているだけではないだろうか。
- ②学校に行けば、楽しいこともあれば、つらいこともある。自分もつらいこともやってきたから、今の自分があると思う。つらいことやつまらないことに取り組むからこそ、社会でやっていける力がつくのだと思う。一生このままやっていける訳もないことを考えるとホントにこれでいいのか不安に思ってしまう。
- ③居場所という聞こえはいいけれど、結局問題から逃げているだけのように思う。結局、

やまびこの郷や校内サポートルームにしても楽しく居心地が良すぎるから、ますます学校や教室から気持ちが離れてしまうのだと思う。他の子どもたちは勉強しているのだから、それをサボっているだけではないか、言い方を変えれば居心地が良すぎるから、学校や教室へ戻ろうとしないのではないかと思ってしまう。

## その疑問、こんなふうに考えてみませんか

### ○自分がそう思っていることを受け入れる

お子さんが家から一步も出られず、家の中で荒れたり、自分の部屋から出てこなかったりしている時のことを考えると、笑顔が見られるようになっただけでもうれしくなるのは当然です。そして、そうした様子がしばらく続くと、そろそろ学校や教室に戻ったほうがいいと思うのも自然です。学校へ戻ることがただ一つの目的ではないと頭ではわかっているけれど、やはり学校は行って当たり前で、嫌だから行かなくていいとは本音では思えません。それがお子さんを追いつめることだと言われるかもしれませんが、まずはそれ（だれもそれを責めることはできません）を受け入れ、その上で何ができるかを考えてみませんか。

### ○落ちついてお子さんの心と向き合えるチャンスと考える

お子さんがあなたに言い放った「学校なんかもう行かない」という言葉には、「本当に行かない」という意味もあれば、「行きたいんだけど行けないんだよ」という意味もあるかもしれません。これまででしたら「だから、ダメなんだ」と返してお子さんの自己肯定感を下げることが多かったかもしれませんが、今なら「そう言わざるをえないのかもしれないな」と思い、お子さんの心と向き合えるのではないのでしょうか。



### ○お子さんの心の伴走者になる

実は、お子さんたちはずっとこの生活が続くとは思っていません。たとえば、中2から中3になると、進路のことが現実的な問題になってきます。私たちが聞き出さなくても、「こういう高校に行きたいんだ」と希望を語るお子さんもいれば、「中学を卒業したらどうなるんだろうか」と不安を吐露するお子さんもいます。今の楽しさしか見ていないようでも、これまで学校に行けていないという中で進路を選ぶことに希望と不安を抱えています。そのような時に、まさに伴走していただけないのでしょうか。



### ○レジリエントに生きていく

これから先、一人の大人になるまでには、いくつもの困難が待ち受けています。嵐の中を進まなければならない時には、強い風に負けず進むことも大切ですが、時にはそれに逆らわず、柳のように身をしなやかにして通り過ぎるのを待つことも大切です。今は学校へ行くことがお子さんや保護者様にとって嵐であっても、自分に合ったやり方で嵐に向き合い、嵐が過ぎ去った後に元の姿に戻ることができるように、レジリエントに（心の回復力をもって）生きていければいいと思います。この自分に合ったやり方が学校や教室に行けない時にどう過ごすのか、保護者様がそれをどうサポートするかではないかと思えます。

## 「地域やまびこ教室」を開催しました

但馬やまびこの郷のスタッフが県内5か所へ出かけ、体験活動や保護者交流会を行いました。

### 第1回 県立こどもの館 (木工作)



### 第2回 県立神出学園 (動物とのふれあい体験) (羊毛フェルト)



### 第3回 国立淡路青少年交流の家 (ディスクゴルフ) (海釣り)



### 第4回 県立海洋体育館 (カヤック体験)



### 第5回 県立考古博物館 (火起こし体験)



### 保護者交流会の様子



#### ＜参加された保護者の方の声＞

- ・「話しても大丈夫かな」と思う内容でも、参加された保護者の方々が和やかに受け止めてくださいました。嬉しかったです。
- ・保護者交流会だけでなく昼食時にも参加されている保護者の方と交流して、色々なお話を聞くことができ、参考になりました。
- ・同じ悩みを共有できて、気持ちが落ち着きました。

## 「フリースクール等民間施設等と連携した不登校相談会」(兵庫県)と 「フリースクール等情報交換会」(神戸市)に参加しました

兵庫県内の各地域で6回にわたって兵庫県教育委員会が開催した、「フリースクール等民間施設等と連携した不登校相談会」と、11月に神戸市教育委員会によって開催された「フリースクール等情報交換会」に参加しました。これらの相談会は、不登校またはその傾向が見られるお子さんをもつ保護者の方々に、支援に関するさまざまな情報をご紹介します場として開かれています。私たち但馬やまびこの郷も相談ブースを設け、スタッフが各地域の保護者の皆さまと直接お話しする機会を得ることができました。お子さんの様子や当施設の利用方法についてなど、さまざまなお話をうかがいながら、保護者の皆さまと一緒に考える貴重な時間となりました。



兵庫県立但馬やまびこの郷保護者向け機関紙「やまびこ」Web版 ●令和8年3月

- 兵庫県立但馬やまびこの郷 ●〒669-5135 兵庫県朝来市山東町森字向山3045-101
- TEL (079) 676-4724 ●FAX (079) 676-4721
- URL <https://www.t-yamabiko.asago.hyogo.jp/>